

名古屋市 緑生涯学習センター

②「ロープで助かる命がある」

～ロープ ワークの技術～

日 時：令和元年6月18日(火) 10:00～12:00

場 所：名古屋市 緑生涯学習センター 視聴覚室(3階)

主 催：名古屋市教育委員会 生涯学習課

参加者：18名 《緑区在住》

講 師：NPO法人 愛知県防災士会 防災士

てづか てつお

手塚 哲郎 (副理事長・筆頭総括)

ファシリテーター：6名

保坂 松男(理事・常任顧問)

森 千代子(副理事長・兼 研修委員長)

加藤 和久(理事・兼 組織委員長)

原田 友子(理事・副広報委員長)

宮澤 昌嗣((理事・副研修委員長)

阿部 健二(理事・事務局長 兼 広報委員長)

手塚講師は、冒頭の挨拶の中で大阪北部地震のことに触れ、『大阪北部地震が起きてから今日で1年を迎えます。当時の記憶は、脳裏に焼き付いているものの、時が経つにつれて、その記憶も薄らいでいきます。過去に起きた地震を風化させないために、これからも、防災・減災に一人ひとりが心がけていくことが大切』と熱い思いを参加者へ伝えました。



また、『ロープワークの基本は、災害時の救出・救助アイテムとして有効。しっかり基本を学び、日常の生活で繰り返し実習すれば、ちょっとした特技となり、災害時や緊急時は命を救う道具となるのがロープであり、これがロープワーク』と基本と効果を説き、次に『ロープは堅く結べば、良いというものでは

なく、「結びやすく解けにくい」（張力がかかった時に解けない）、そして、「解きたい時には解きやすい」とロープワークの特性を解説しました。

次に、実技講習に入る前に、前回(6月4日)の防災公開講座の時に参加者の皆様へお約束した「断水トイレ」のサンプルを事前に席上へ配布し、各自お持ち帰り頂くよう森副理事長(兼研修委員長)から申込と使用方法等を交え説明いたしました。また、販売用として「断水トイレ」2箱をお持ちしたところ、グループでシェア購入され、即決で完売しました。



引き続き手塚講師から『今日は、7種類【別記】のロープワークを皆さん方にマスターして頂きたい、一つ一つ判りやすく進めて行きます。全部マスターするのは難しいという方におきましては、一つだけでも、ご自分のものにして頂きますよう頑張ってください。』と参加者を励まし、ロープワークの実技講習を始めていきました。

一つずつ丁寧にロープワークの実技を進めていきましたが、個人差が徐々に出てきましたので、それをカバーするため1人～3人くらいの参加者に対して、講師のほかにファシリテーターが手ほどきをしていきました。

参加者が真剣に取り組まれました結果、努力の甲斐が有った方、無かった方、いろいろでしたが、冒頭に講師から説明しました日常生活におきまして繰り返し練習を積んで、やり方を忘れないで欲しいとの願いを込め、2時間のロープワーク実技講習の時間を終了させていただきました。



真剣にロープワークを講師、ファシリテーターから習う参加者の皆さん

【別 記】

1. 胴もやい結び

自分や負傷者などの身を守るために、ロープを身体に結ぶ方法。簡単に結べて強度が高く、簡単に解くことができることから、「結びの王様」と呼

ばれている。ロープの元が引っ張られているときには、片手で結ぶことができる。

2. 連続止め結び

連続的にこぶをつくることで、手掛かりや滑り止めとなり、階下への避難用ロープとして使うことができる。別名、ふし結び。

3. 蝶結び

ロープの中間に輪をつくることができ、手や足を掛けられるように連続的につくると、階上へ避難用ロープとして使うことができる。

4. 鎖結び

三重に編み込んでいくことで、強度を高めることができる。軟らかくて長いロープの収納にも適している。

5. 巻き結び(クローブ・ヒッチ)

古くから船乗りたちが使っていた古典的な結びでロープを巻き付けて物体に止める。二つの輪をつくって結ぶ方法。ロープの途中に輪を二つ作り、一方の輪をもう一つの輪に重ねて物体に通す。輪の作り方や重ね方を誤ると結べないので、しっかり覚えておきたい。

6. ねじり結び(ティンバー・ヒッチ)

災害時に転倒した木などの移動処理する際に活用。

7. 引きとけ結び

引きとけ結びは、その名のとおり引くと解ける結び方。便利でしかも簡単なので、日常でもよく使われる。

《参 考》 ロープの結び方につきましては、[You Tube \(ユー チューブ\)](#) で、検索しますと絵や動画で見ることができます。